

2019年3月期 決算報告

2019/5/15

第一生命ホールディングス株式会社



Dai-ichi Life
Holdings

- 第一生命ホールディングス 経営企画ユニット ユニット長の西村です。
- 本日は、第一生命グループの2019年3月期決算報告の電話会議にご参加いただきまして、ありがとうございます。
- 私から資料に沿って決算内容についてご説明し、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。

1. 【営業業績】国内新契約年換算保険料は前年比31.1%増加

- 国内3生保でのマルチブランド・マルチチャネル戦略による販売が拡大。国内3生保の新契約年換算保険料は前年比で31.1%増加
- 第一生命が12月投入した認知症保険の貢献もあり、国内3生保の新契約価値はプラス成長

2. 【連結業績】グループ修正利益は予想を上回る着地、配当は8円増配の58円

- 第一生命の基礎利益が想定を上回り、19年3月期のグループ修正利益は2,363億円と達成率103%
- 現金配当予想は8円増配の58円とし、280億円の自己株取得を決議、総還元性向40%を維持

3. 【ガイダンス】増益基調維持、配当は4円増配の62円を予想

- 20年3月期のグループ修正利益予想は、買収等による海外生保事業の成長を見込み、約2,400億円と増益を維持
- 現金配当は7期連続の増配となる62円を予想

- 今回の決算のポイントを以下の3点にまとめました。
- 営業業績については、国内3生保において、それぞれが競争力のある商品を投入し、最適なチャネルを通じてお客さまに繋ぐマルチブランド・マルチチャネル戦略を推進した結果、営業職・代理店・銀行窓販のいずれのチャネルでも新契約を伸ばし、新契約年換算保険料は3社合計で前年比31.1%増と高い伸びを達成しました。また、新契約価値についても、昨年12月下旬から販売を開始した認知症保険の売れ行きが好調なことなどから5.6%増となりました。
- なお、第一生命のジャストは、好調な販売が続いており、4月に累計100万件、認知症保険については同10万件を超える販売を記録しました。
- 第二に、連結業績については、前年比で増収・減益となりました。株主還元原資であるグループ修正利益も小幅減益となりましたが、予想を上回る着地となりました。株式市場が堅調に推移したことから、第一生命の利息配当金収入が想定を上回ったことが主な要因です。
- 今決算にかかる現金配当額は一株あたり58円を予想し、当初予定の53円から5円引き上げ、前年比で8円増配としました。また、280億円の自己株取得を決議し、総還元性向は40%を維持する見通しです。
- 20年3月期の業績は減収・増益を予想しており、グループ修正利益も約2,400億円と増益を予想しています。国内生保事業が安定した収益を維持する一方、海外生保事業の成長が増益を支える見込みです。現金配当は4円増配の62円を予想しています。
- 次のページをご覧ください。

(億円) <参考>

	18/3期	19/3期 (a)	前年比		2019/2/14	達成率 (a/b)
					発表予想(b)	
連結経常収益	70,378	71,840	+ 1,462	+ 2%	70,070	103%
第一生命	37,919	37,395	△ 523	△ 1%	36,210	103%
第一フロンティア生命	18,094	20,369	+ 2,275	+ 13%	20,070	101%
プロテクティブ(百万米ドル) ⁽¹⁾	9,772	8,717	△ 1,055	△ 11%	9,190	95%
TAL(百万豪ドル) ⁽¹⁾	3,769	3,917	+ 147	+ 4%	3,830	102%
連結経常利益	4,719	4,329	△ 390	△ 8%	4,140	105%
第一生命	3,588	3,466	△ 122	△ 3%	3,300	105%
第一フロンティア生命	608	391	△ 217	△ 36%	250	156%
プロテクティブ(百万米ドル)	435	383	△ 51	△ 12%	470	82%
TAL(百万豪ドル)	199	153	△ 45	△ 23%	200	77%
連結純利益 ⁽²⁾	3,639	2,250	△ 1,388	△ 38%	2,200	102%
第一生命	1,699	1,729	+ 29	+ 2%	1,650	105%
第一フロンティア生命	370	199	△ 171	△ 46%	140	143%
プロテクティブ(百万米ドル)	1,106	302	△ 804	△ 73%	370	82%
TAL(百万豪ドル)	128	111	△ 17	△ 14%	140	80%
グループ修正利益	2,432	2,363	△ 69	△ 3%	2,300程度	103%

- (1) 米プロテクティブおよび豪TALの数値は、各国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。連結の際には、それぞれ1米ドル=113.00円(18/3期)、111.00円(19/3期)、1豪ドル=81.66円(18/3期)、78.64円(19/3期)で円換算しています。
- (2) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

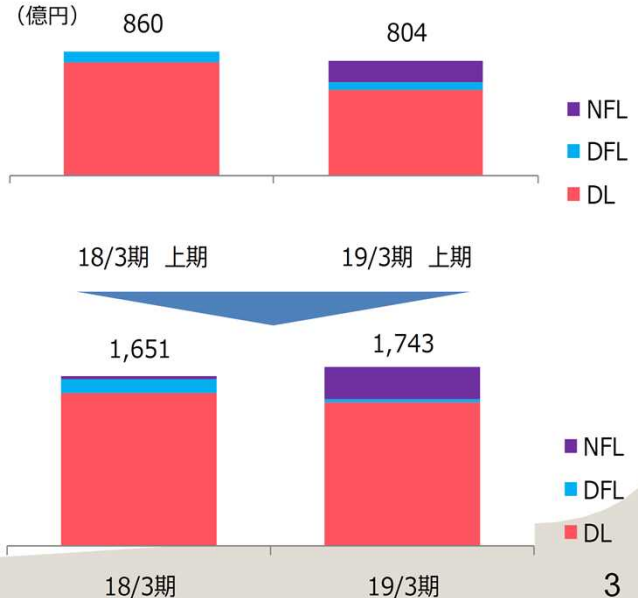
- 連結及び主要子会社の業績概要について説明します。
- 連結経常収益は、前年比1,462億円の増加となりました。第一フロンティア生命の外貨建て保険の販売が伸張し、保険料等収入の増加につながりました。
- 連結経常利益は、前年比390億円の減少となりました。第一生命については、前年比122億円減少しております。基礎利益は想定を上回った反面、金融派生商品費用や為替差損などが増加したことが主な要因です。第一フロンティア生命は海外金利の低下により市場価格調整損益が悪化したものです。プロテクティブでは、上半期の保険金支払増加が影響しています。TALは個人保険・団体保険で保険金支払が増加し、減益となりました。
- 親会社株主に帰属する当期純利益(連結純利益)は、2,250億円と前年比1,388億円の減少となりました。前年度の利益にはプロテクティブが計上した米国税制改正の影響901億円とジャナス・ヘンダーソンの合併に係る株式交換益335億円が含まれています。
- 株主還元の原資となるグループ修正利益は2,363億円となり、前年比69億円の減少となっています。
- 次のページをご覧ください。

- 第一生命の「ジャスト」、ネオファースト生命の「ネオdeきぎょう」など、昨年投入の新商品が貢献。マルチブランド・マルチチャンネル戦略の強化も奏功し、**新契約年換算保険料は前年比+31.1%**。
- 12月から販売の認知症保険の貢献もあり、新契約価値は上期マイナスから通期プラス成長へ

国内3生保の新契約年換算保険料



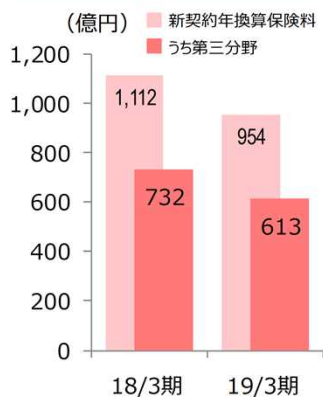
国内3生保の新契約価値



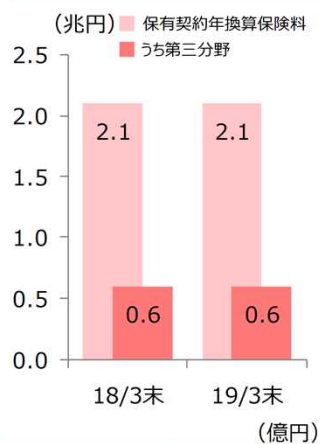
- ここからは国内生命保険事業について説明します。
- まずは営業業績についてです。国内3つのブランドが互いに競争力のある商品を開発し、グループ全体でチャンネル開拓を進めながらお客さまのニーズに合わせて最適なチャンネルで商品・サービスを提供するマルチブランド・マルチチャンネル戦略を推進いたしました。
- その結果、第一生命では健診割を導入した商品「ジャスト」の販売が好調で、昨年12月下旬に発売した認知症保険も想定以上の実績となっています。繰り返しになりますが、4月中に「ジャスト」は100万件、認知症保険の販売も10万件を突破いたしました。ネオファースト生命では、代理店パートナーとの関係強化により医療保険の販売が加速しました。第一フロンティア生命ではメガバンクに加えて地銀等との委託販売が拡大し、第一生命の営業職による販売も好調に推移しました。
- この結果、営業職・代理店・銀行窓販全てのチャンネルで販売が伸び、3社合計の新契約年換算保険料は前年比31.1%増となりました。なお、2月に経営者保険を売り止めしましたが、経営者保険を除くベースでも国内生保3社の新契約は前年比4%の伸びを示しています。
- 新契約価値についても、上期は前年比でマイナスであったものの、認知症保険の売れ行きが好調だったこと等により、通期では前年比5.6%増と着実に拡大しています。
- 次のページをご覧ください。

- 保有契約年換算保険料は前年度ほぼ維持
- 基礎利益、純利益、修正利益の3項目も対前年比プラスを確保

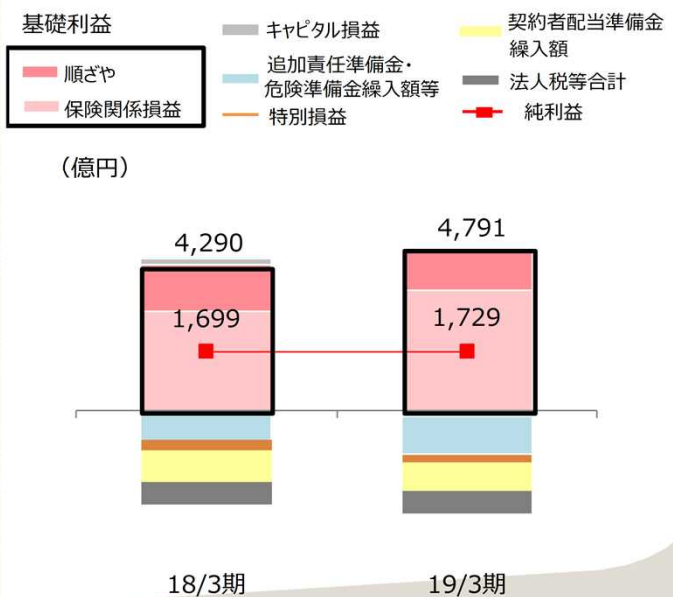
新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



基礎利益・純利益増減分析

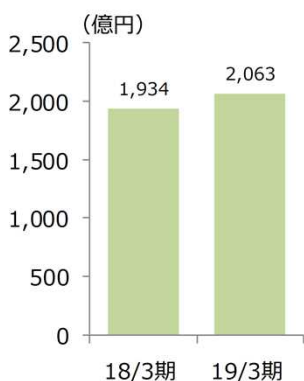


	18/3期	19/3期	増減
基礎利益	4,290	4,791	+501
純利益	1,699	1,729	+29
修正利益	1,698	1,714	+16

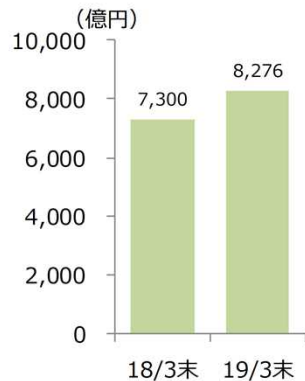
- 第一生命の業績について説明します。
- 新契約年換算保険料が前年比で減少していますが、第一生命の営業職や代理店が第一フロンティア生命やネオファースト生命など3ブランド商品の販売を強化したことなどが要因です。営業職チャネル経由で販売された第一生命グループの商品は、3ページに記載の通り前年比10.6%増加しています。
- 基礎利益は順ざや、保険関係損益共に想定を上回って推移し、前年の4,290億円から4,791億円に拡大しました。保険関係損益の改善は、昨年3月の料率改定を伴う新商品投入により標準責任準備金繰入額が減少したことが主な要因です。
- 金融派生商品費用や為替差損が増加していますが、基礎利益の増加で吸収し、純利益、修正利益共に増益となりました。
- 次のページをご覧ください。

- 地銀等との委託販売の拡大に加え、第一生命の営業職による販売強化から、新契約は増加
- 金融環境の変動に伴い、最低保証リスク関連損益と市場価格調整（MVA）に係る損益はマイナス寄与も、変動要因を除く事業利益は概ね前年同水準を確保

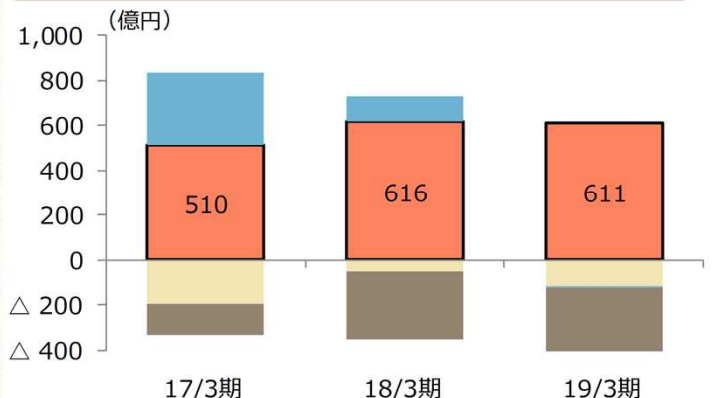
新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



純利益を構成する各損益指標



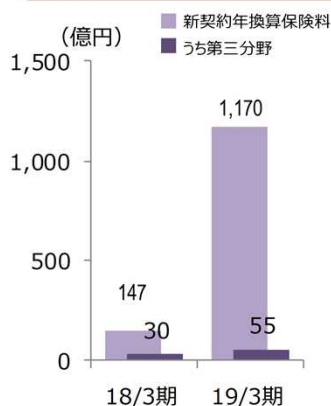
	18/3期	19/3期	増減
事業利益	616	611	△5
純利益	370	199	△171
修正利益	291	207	△84

注： 事業利益は、純利益から最低保証リスク関連損益、市場価格調整（MVA）に係る損益、危険準備金の繰入等を除いた基礎的な収益力を表す内部管理指標です。

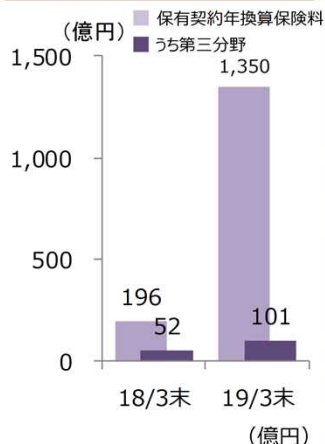
- 第一フロンティア生命の業績について説明します。
- 新契約年換算保険料が順調に拡大していますが、これはメガバンクに加えて地銀や第一生命の営業職など、チャネル拡充の進展と、それに伴う外貨建商品の販売が増加したためです。
- 右側のグラフでは純利益を構成する各損益の推移を示しています。年度末にかけて株式市場が調整し、金利も低下したため、最低保証リスク関連損益と市場価格調整に係る損益が悪化しました。中でも豪ドル金利の下落が大きくなりましたが、売買目的有価証券の含み増加により一部相殺しています。
- こうした状況においても、基礎的な収益力を示す「事業利益」ベースでは、概ね前年同水準を確保しました。
- 次のページをご覧ください。

- 「ネオdeきぎょう」の販売増から、新契約年換算保険料、保有契約年換算保険料とも大幅増
- 上記商品は本年2月に売り止めの一方、代理店パートナーの拡大から、医療保険の販売は順調

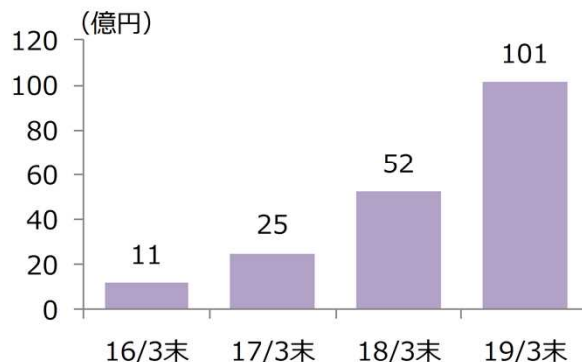
新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



第三分野保有契約年換算保険料

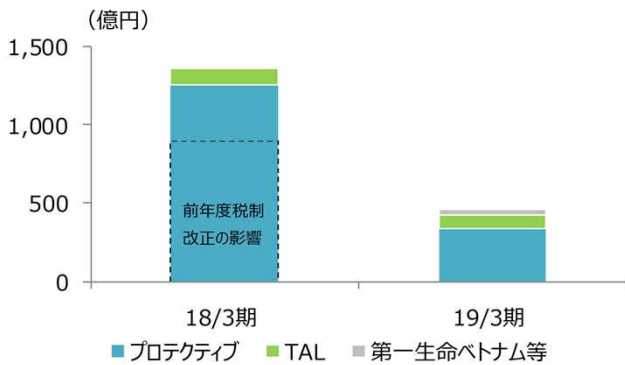


	18/3期	19/3期	増減
保険料等収入	245	1,811	+1,565
純利益	△83	△85	△2
修正利益	△83	△85	△2

- ネオファースト生命の業績について説明します。
- 昨年3月から法人向け保険商品「ネオdeきぎょう」を発売し、主に第一生命の訪問型代理店チャンネルで販売していましたが、8月以降は営業職による販売も開始し、保有契約年換算保険料は大幅に拡大しました。現在経営者保険は、税制改正の動向を踏まえ、売り止めとしております。一方で、銀行窓販や乗合代理店等で販売される医療保険は、代理店パートナーとの関係が強まった結果、販売を大きく伸ばすことが出来ました。
- 業績面では、営業業績の拡大に伴う費用増により純利益、修正利益ともにマイナスとなっていますが、水準は前年並みに抑えることが出来ました。
- 次のページをご覧ください。

- 海外生命保険事業では、プロテクティブが税制改正の影響などにより大幅減益となった他、TALも保険金支払等により減益
- アセットマネジメント事業では、第2四半期からのジャナス・ヘンダーソンの持分適用が貢献

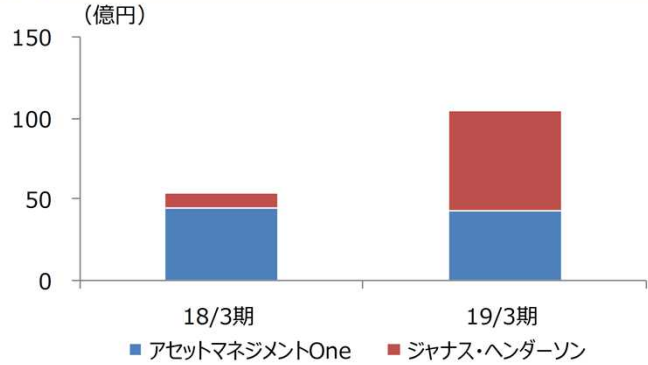
海外生命保険事業純利益



<海外生命保険事業純利益> (億円)

	18/3期	19/3期
プロテクティブ	1,250	335
TAL	105	87
第一生命ベトナム等	13	35
海外生命保険事業	1,369	458

アセットマネジメント事業純利益



<アセットマネジメント事業純利益> (億円)

	18/3期	19/3期
アセットマネジメントOne	44	43
ジャナス・ヘンダーソン ⁽¹⁾	8	61
アセットマネジメント事業	53	104

(1) 18/3期のジャナス・ヘンダーソン持分利益は合併前のジャナス・キャピタルに対する20%の持分損益を示しています。

- 海外生命保険事業、アセットマネジメント事業の利益を円建てでお示ししています。
- プロテクティブについては、米国の税制改正の影響による利益の剥落が大きく影響したことに加え、一時的要因もあり減益となりました。また、TALも保険金支払等により減益となっています。
- アセットマネジメント事業では、昨年5月からジャナス・ヘンダーソンが持分法適用関連会社となったことで、利益貢献が大きく拡大しています。
- 次のページをご覧ください。

- 生保事業は減益も、買収事業やアセットプロテクション事業の増益で一部相殺
- 2018年5月1日にリバティ・ライフの契約ブロック買収を完了、グレートウェストの契約ブロックについては2019年6月頃に買収手を完了予定

<生保事業>

下期に入り改善を見せたものの、上半期の保険金等支払の増加等の結果、当期の税引前営業利益は減少

<買収事業>

リバティ・ライフ買収効果や運用収益の貢献で増益

<年金事業>

前提条件と実績の差異を調整し、繰延新契約費用の償却費用等が増加したものの、一時払即時年金の収益改善で一部相殺

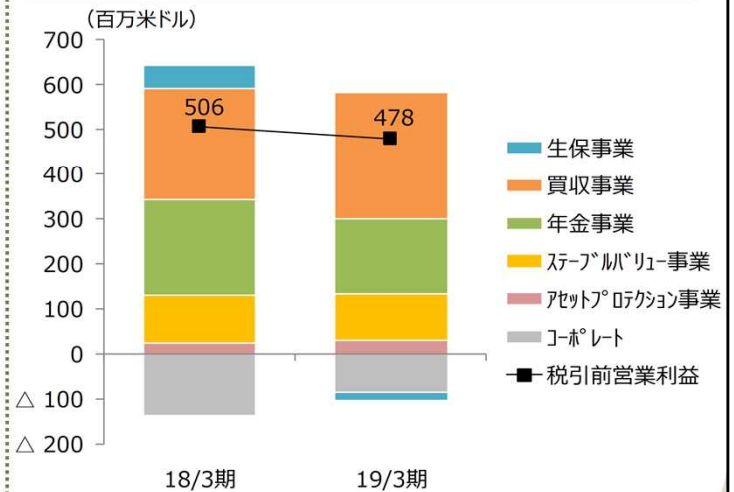
<ステーブルバリュー事業>

金利スプレッドの低下により減益

<アセットプロテクション事業>

良好な損害率や、サービス契約実績により増益

税引前営業利益



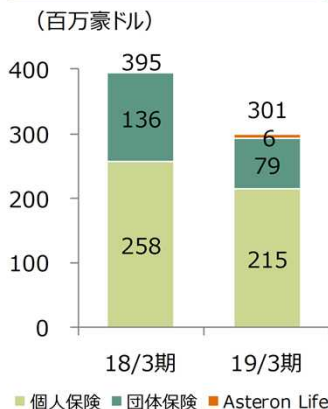
- (1) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。
 (2) 税引前営業利益(Pre-tax Adjusted Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

	18/3期	19/3期	増減
税引前営業利益 ⁽²⁾ (百万米ドル)	506	478	△28
純利益 (億円)	1,250	335	△914
修正利益 (億円)	349	335	△13

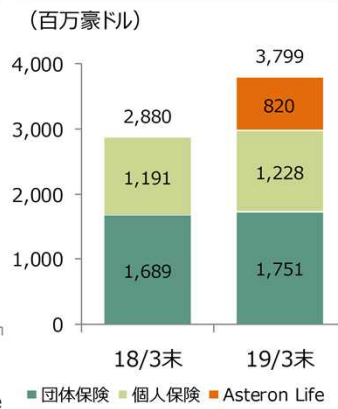
- プロテクティブの2018年12月期業績について説明します。
- 税引前営業利益は生保事業、年金事業で前年を下回りました。生保事業については、業況は第3四半期に入り改善を見せたものの、上半期の保険金支払の増加の影響を相殺するには至っていません。年金事業は金融環境等の前提と実績の差異を調整した結果、減益となりました。
- 買収事業では、昨年5月に買収を完了したリバティ・ライフの契約ブロックの影響が寄与し、既契約ブロックの満了に伴う収益減の影響を一部相殺して増益となりました。またステーブルバリュー事業は金利スプレッドの低下により減益でした。
- 次のページをご覧ください。

- 保有契約年換算保険料は買収されたSuncorp Life(現 Asteron Life⁽²⁾) の貢献で大幅に増加
- 基礎的収益力は保険金支払の増加等により減益

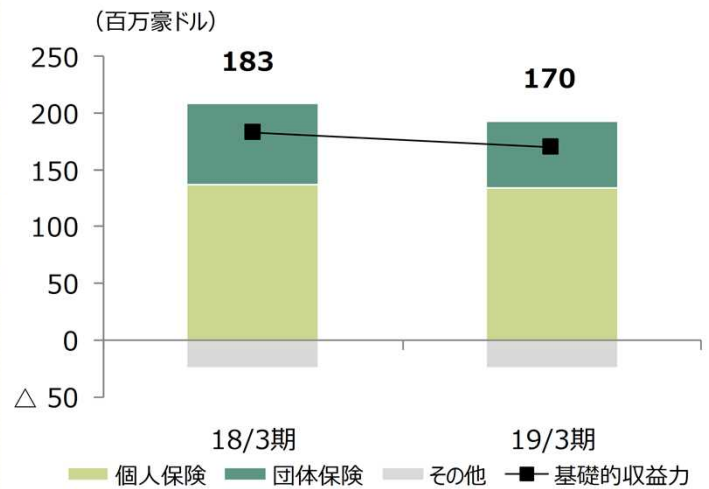
新契約年換算保険料



保有契約年換算保険料



基礎的収益力



	18/3期	19/3期	増減
基礎的収益力 (百万豪ドル)	183	170	△13
純利益 (億円)	105	87	△17
修正利益 (億円)	105	98	△7

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値
 (2) 2019年2月28日付で子会社化したSuncorp Life & Superannuation Limitedは買収完了と同時にAsteron Life & Superannuation Limitedに改名

- TALの業績について説明します。
- オーストラリアの個人保険市場においては規制の見直しを含め厳しい市場環境が継続しており、TALの個人保険部門における新契約は前年比で減少しました。団体保険部門でも、大型契約を複数獲得した前年に比べると減少しています。保有契約年換算保険料は2月28日付で買収を完了したサンコープ・ライフ(現アステロン・ライフ)の保有契約を反映し前年比31%増となっています。
- 基礎的収益力は、個人保険・団体保険共に保険金支払が増加したこと等により前年比7%減となりました。
- 次に11ページをご覧ください。



業績ガイダンス

■ 海外生保事業の成長により増益基調を維持

(億円)

	19/3期	20/3期(予) ※2019/5/15 発表予想	増減
連結経常収益	71,840	69,310	△ 2,530
第一生命	37,395	34,850	△ 2,545
第一フロンティア生命	20,369	16,950	△ 3,419
プロテクティブ(百万米ドル)	8,717	10,370	+ 1,652
TAL(百万豪ドル)	3,917	4,890	+ 972
連結経常利益	4,329	4,170	△ 159
第一生命	3,466	3,140	△ 326
第一フロンティア生命	391	410	+ 18
プロテクティブ(百万米ドル)	383	430	+ 46
TAL(百万豪ドル)	153	230	+ 76
連結純利益 ⁽¹⁾	2,250	2,260	+ 9
第一生命	1,729	1,510	△ 219
第一フロンティア生命	199	300	+ 100
プロテクティブ(百万米ドル)	302	350	+ 47
TAL(百万豪ドル)	111	160	+ 48
1株当たり配当金	58円	62円	+4円
グループ修正利益	2,363	2,400程度	+ 36
(参考:基礎利益)			
第一生命グループ	6,058	5,100程度	△ 958
第一生命	4,791	3,900程度	△ 891

(1) 連結純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益を記載しています。

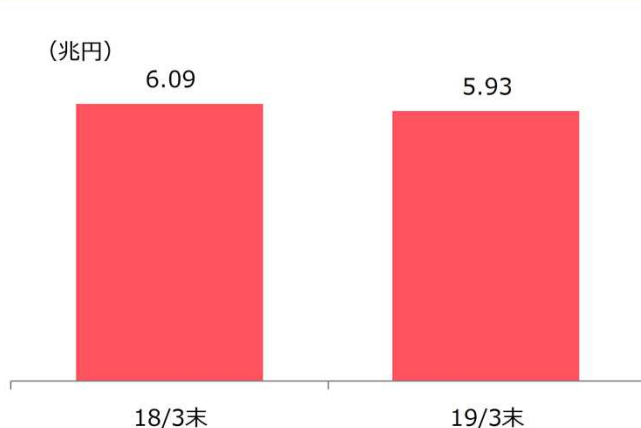
- 20年3月期の業績予想は減収・増益を予想しています。減収となるのは足もとの金融環境や販売動向を踏まえた見通しになります。
- 増益を予想するのは、海外事業で保険金請求の増加など一時的要因が剥落し、オーガニック成長基調に回帰することに加え、M&Aによる貢献が見込まれるためです。
- なお、冒頭でもお伝えしたとおり、今決算にかかる現金配当額は一株あたり58円とし、以前予想していた53円から5円引き上げ、前年比で8円増配としました。
- 海外生保事業において中計初年度で着実に利益貢献が見込めるM&A3件に取組み、中計期間の利益成長の確度が高まったことなどを踏まえ、増配を決定いたしました。
- 20年3月期についても、増益基調の維持を背景に現金配当は4円増配の62円を予想しています。次のページをご覧ください。



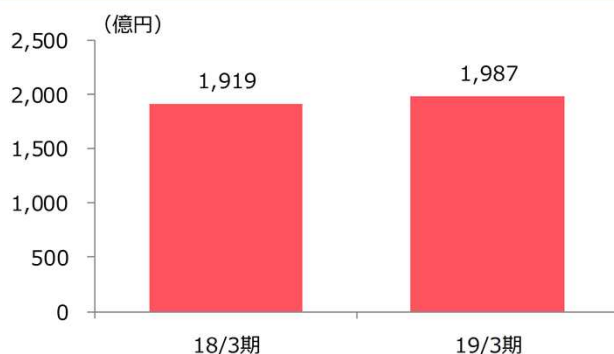
グループEEV

- グループEEVは5.9兆円
- 金融環境の変化により残高は減少したが、各社の営業活動を通じた新契約価値や期待収益の実現、買収効果がプラスに貢献
- アジア関連会社2社を含むグループ新契約価値は1,919億円から3.5%増の1,987億円

グループEEV



新契約価値・新契約マージン



	18/3期	19/3期	(変化)
グループ	4.30%	3.78%	△0.51pp
うち第一生命	6.98%	7.39%	+0.40pp
うち第一フロンティア生命	0.96%	0.17%	△0.79pp
うちT A L	8.04%	5.24%	△2.80pp

- グループEEVについて説明します。
- 19年3月末のグループEEVは5.9兆円となり、前年度末の6.0兆円から微減となりました。国内の金利低下、株価下落による影響がありましたが、各社の営業活動を通じた新契約価値や商品特性を反映した超過収益の実現、M&Aの成果などにより相殺しています。
- 新契約価値は、アジアの関連会社2社の新契約価値を含め、1,987億円となり、前年度の1,919億円から3.5%増加しています。
- 新契約マージンは、主に商品ミックスの変化により4.3%から3.7%へ低下しましたが、第一生命では認知症保険の販売等の貢献もあり、マージンは6.9%から7.3%へ改善しています。
- 第一フロンティア生命のマージンの低下は米ドル建商品の販売拡大に従い社債による運用が増加しているためです。こうした商品の収益性はリスクフリーレートで計算される新契約価値には反映されず、超過収益としてEVの増加に貢献することになっています。TALの新契約マージンの低下は大規模な業界再編が進む中で新契約が伸び悩み、ユニットコストが上昇した影響です。
- 次のページをご覧ください。

グループE E V-変動要因分析 (19/3期)

(億円)

	18/3期	19/3期	要因分析
期初E E V	54,954	60,941	
(1) E E Vの調整	△ 1,050	△1,224	
うち株主配当金支払	△ 507	△584	
うち自己株式取得	△ 230	△390	
うち為替変動に伴う調整	△ 313	△249	
調整後期初E E V	53,904	59,717	
(2) 新契約価値	1,902	1,974	経営者保険、認知症保険の販売貢献
(3) プロテクトティブ社による買収に伴うE E Vの変動	0	379	リバティ社契約ブロック買収の影響
(4) 期待収益 (市場整合的手法)	3,221	3,571	
うちリスク・フリー・レート分	199	218	
うち超過収益分	3,022	3,353	第一フロンティア生命の運用スプレッドの利益実現を含む
(5) 期待収益 (トップダウン手法)	344	415	プロテクトティブの割引の解放
(6) 前提条件 (非経済前提) と実績の差異	△ 252	△34	
(7) 前提条件 (非経済前提) の変更	△ 461	△652	
(8) 前提条件 (経済前提) と実績の差異	1,505	△5,762	金利低下・株価下落
(9) 対象事業以外における事業活動および経済変動に伴う増減	148	△104	
(10) その他の要因に基づく差異	628	△139	18/3期は米国法人税法改定の影響501億円を含む
期末E E V	60,941	59,365	
R o E V	13.1%	△0.6%	

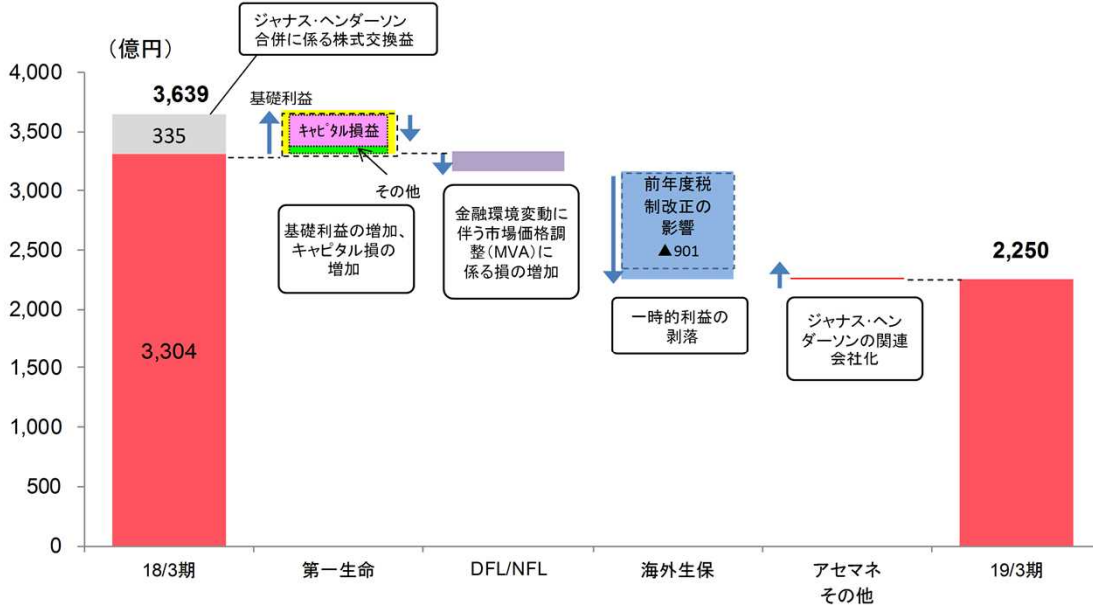
14

- グループEEVの変動要因について説明します。
- 企業努力を通じたEVの増減では、新契約価値1974億円に加え、プロテクトティブによるリバティ・ライフの契約ブロック買収に伴いEVが379億円増加しています。TALによるサンコープ・ライフ(現アステロン・ライフ)買収については、クローリングが2月末となったため、現時点ではEVを買収価格で評価しており、EVの増減には影響していません。
- 期待収益は、第一フロンティア生命の外貨建て保険など商品特性を反映し、運用スプレッドの実現が超過収益としてEV増加に貢献しています。また、プロテクトティブの変額年金を除く商品についても、トップダウン手法でEEVを計算しているため、EEV計算にリスクフリーレートを上回る高い割引率を適用しており、その割引の解放がEV増加に貢献しています。
- 一方、主に国内の金利低下、株価下落により経済前提と実績の差異が大きくマイナスとなり、グループRoEVは0.6%のマイナスとなりました。
- 私からの説明は以上です。



参考データ

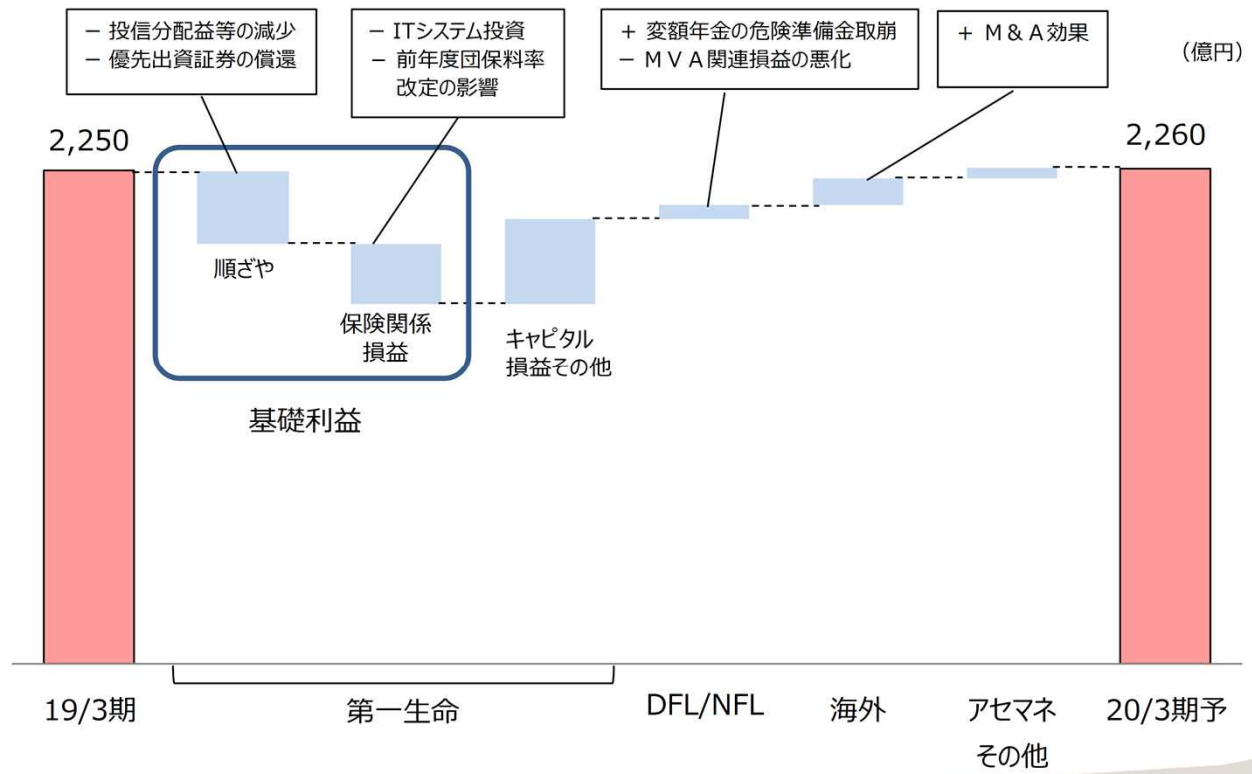
第一生命グループ業績 - 19/3期連結純利益変動要因



当期期純利益	3,639
DLのMVA損益	△0
DFLのMVA損益	△79
のれん償却	+70
米国税制改正	△901
株式交換益	△335
その他	+39
修正利益	2,432

当期期純利益	2,250
DLのMVA損益	△0
DFLのMVA損益	+7
のれん償却	+82
その他	+23
修正利益	2,363

第一生命グループ業績 - 20/3期連結純利益予想変動要因



第一生命グループ業績 - 契約動向



Dai-ichi Life Holdings

新契約年換算保険料

保有契約年換算保険料

(億円)

	18/3期	19/3期	前年比	18/3末	19/3末	前期末比
国内3社計	3,194	4,189	+31.1%	28,955	30,924	+6.8%
第一生命	1,112	954	△14.2%	21,458	21,297	△0.8%
第三分野	732	613	△16.3%	6,479	6,752	+4.2%
第一フロンティア生命	1,934	2,063	+6.7%	7,300	8,276	+13.4%
ネオファースト生命	147	1,170	+694.5%	196	1,350	+586.1%
海外3社計	870	898	+3.2% (+6.3%)	7,756	8,634	+11.3% (+14.3%)
プロテクトティブ ⁽¹⁾	366	413	+12.9% (+14.9%)	4,981	5,070	+1.8% (+3.6%)
TAL	322	236	△26.6% (△23.8%)	2,352	2,988	+27.0% (+31.9%)
第一生命ベトナム ⁽¹⁾	181	248	+36.5% (+42.2%)	422	575	+36.1% (+41.8%)
第一生命グループ計	4,064	5,087	+25.2% (+25.8%)	36,711	39,558	+7.8% (+8.4%)

<参考>

第一生命のチャネル別新契約年換算保険料

(億円)

	18/3期	19/3期	増減
第一生命	1,112	954	△ 157
訪問型代理店	114	74	△ 39
第一フロンティア生命	1,934	2,063	+ 129
第一生命の営業職 同、訪問型代理店	287	334	+ 46
同、訪問型代理店	7	16	+ 9
ネオファースト生命	147	1,170	+ 1,023
第一生命の営業職 同、訪問型代理店	-	207	+ 207
同、訪問型代理店	116	897	+ 781
国内生保事業計	3,194	4,189	+ 994

上段は円換算、下段は現地通貨建の変化率
海外3社計、グループ計の下段は為替変動の影響を除く伸び率

(1) 米プロテクトティブ、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

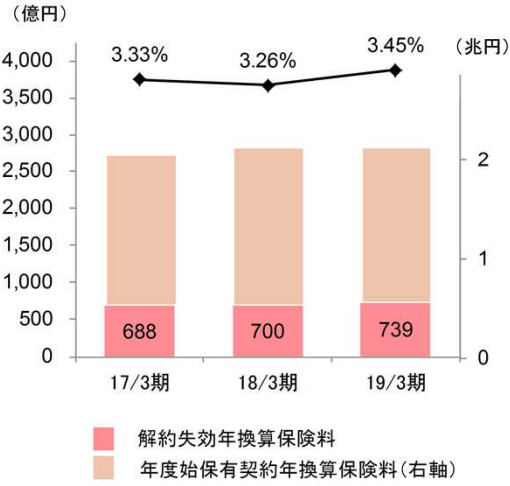
(億円)

	18/3期	19/3期	増減
基礎利益	4,290	4,791	+501
うち順ざや	1,367	1,263	△ 104
うち保険関係損益	2,921	3,528	+606
キャピタル損益	190	△ 202	△ 392
うち有価証券売却損益	1,183	1,363	+180
うち金融派生商品損益	△ 327	△ 482	△ 154
うち為替差損益	△ 750	△ 959	△ 208
臨時損益	△ 892	△ 1,122	△ 230
うち新規追加責任準備金繰入額	△ 845	△ 818	+26
うち危険準備金繰入額	△ 44	0	+44
うち再保険料(新規締結分)	-	△ 1,289	△ 1,289
うち出再に伴う責任準備金戻入額	-	986	+986
経常利益	3,588	3,466	△ 122

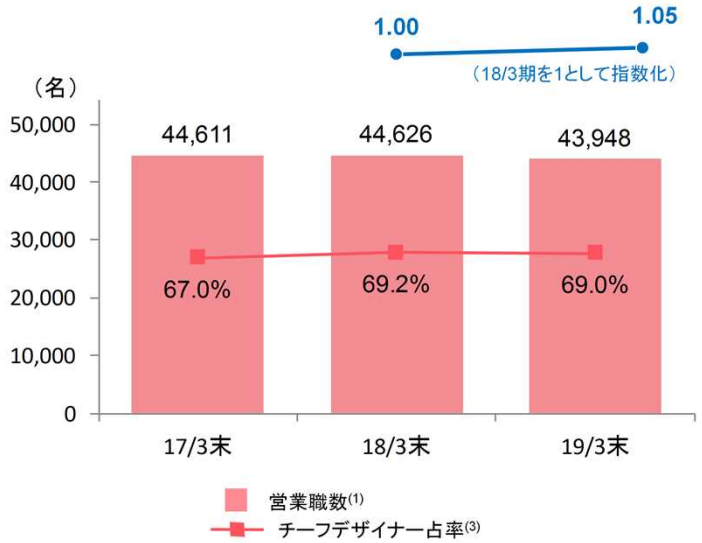
年換算保険料ベース解約失効
(個人保険・個人年金)

営業職数および生産性

解約失効率

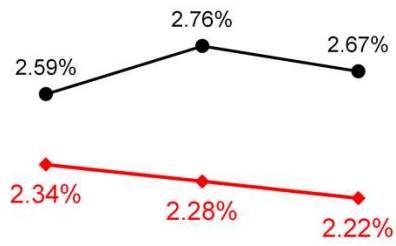


一人あたり営業収益価値⁽²⁾



(1) 営業職については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております。
 (2) 各期間における営業収益価値を分子、各期間の営業職数（補助的業務に従事する者を除く）の平均値を分母として計算しています。営業収益価値とは、営業部門の獲得収益を表す当社独自の指標であり、経済環境の変動要因を除外した新契約価値に相当します。
 (3) 所定の成績水準を満たす、第一生命の中核たる営業職の占率を指します。

平均予定利率と基礎利回り



17/3期 18/3期 19/3期

● 基礎利益上の運用収支等の利回り
◆ 平均予定利率

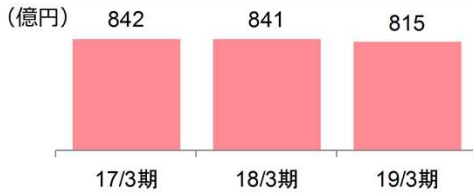
- 金利上昇局面での債券の入替やオープン外債の積み増しなど、相場状況を捉えた機動的な取組みにより、順ざやを維持

利息及び配当金等収入の内訳 (19/3期)



- 追加責任準備金の新規繰入れにより、平均予定利率は下降トレンドを維持

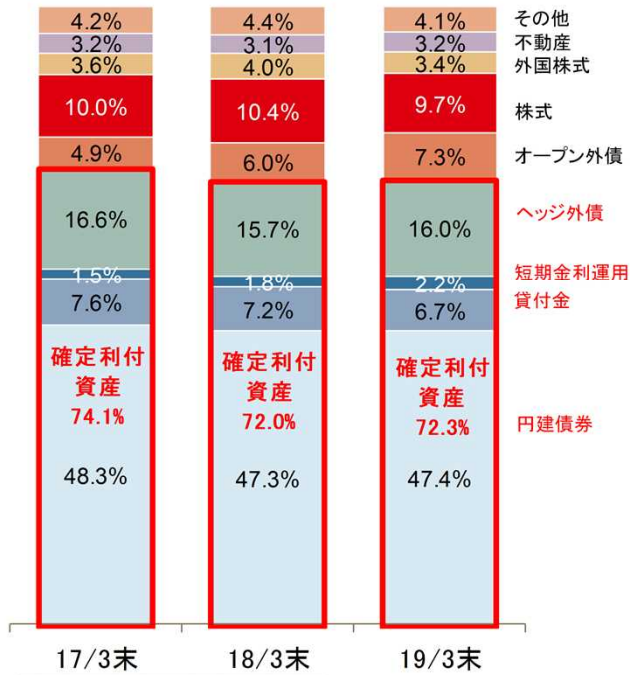
追加責任準備金 新規繰入額 (1)



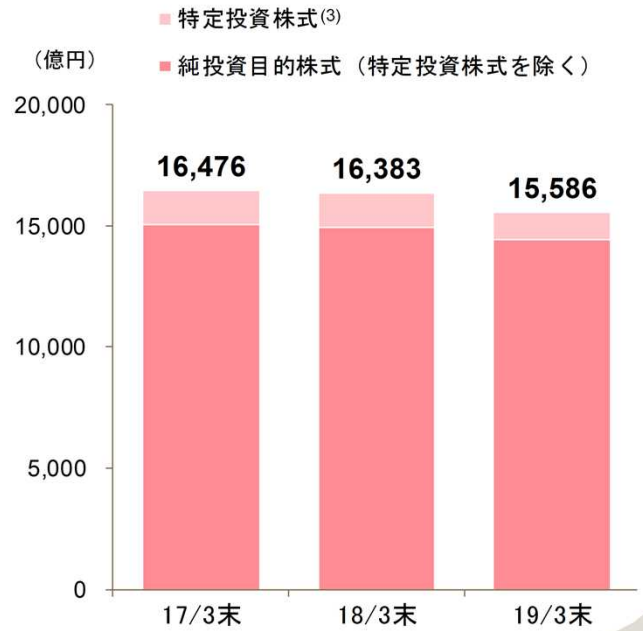
(1) 1996年3月以前加入の終身保険のうち、払込満了後契約を対象とした金額を記載しています。

第一生命業績 – 一般勘定資産運用の状況 (1)

資産の構成(一般勘定) (1)



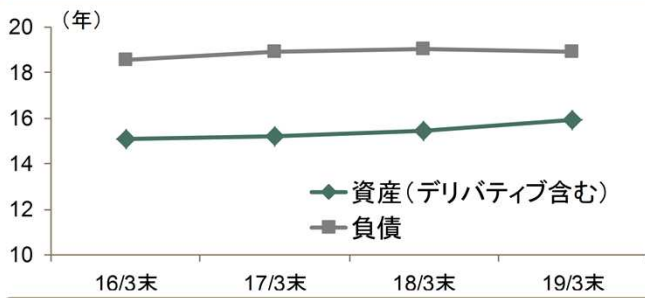
国内株式の簿価 (2)



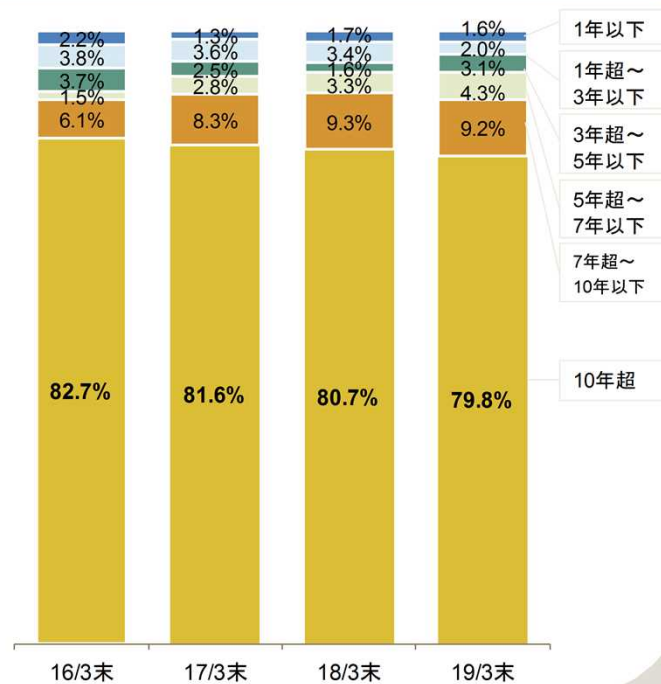
(1) 貸借対照表価額ベース
 (2) 国内株式のうち時価のあるもの (子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)
 (3) 純投資目的以外の目的で保有する株式 (非上場国内株式、みなし保有株式は除く)

第一生命業績 - 一般勘定資産運用の状況 (2)

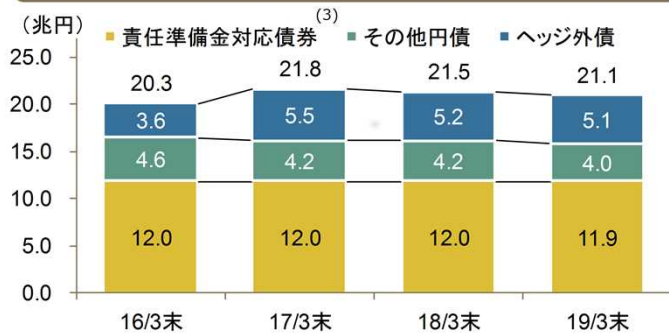
確定利付資産と負債のデュレーション (1)



国内債券の残存期間 (4)



債券の積み増し状況 (2)

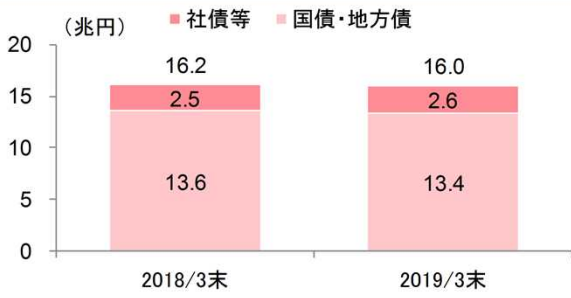


(1) 一般勘定資産のうち主に個人保険・個人年金に関わる経理区分の保険負債と円建確定利付資産（デリバティブ含む）のデュレーション
 (2) 一般勘定資産のうち円建債券とヘッジ外債を対象としています。簿価ベース
 (3) 責任準備金対応債券とは、保険会社だけに認められた区分で、一定の要件を満たせば償却原価法による評価が認められているものを指します。
 (4) 一般勘定資産のうち国内債券を対象としています。貸借対照表価額ベース

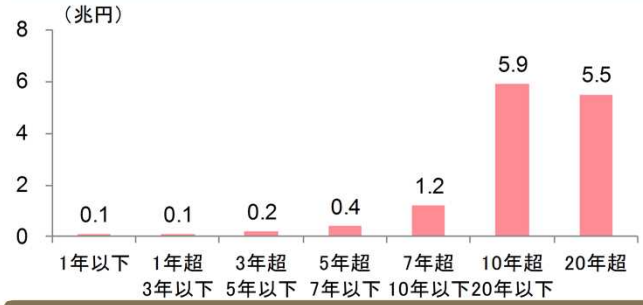
第一生命業績 – 一般勘定資産運用の状況 (3)



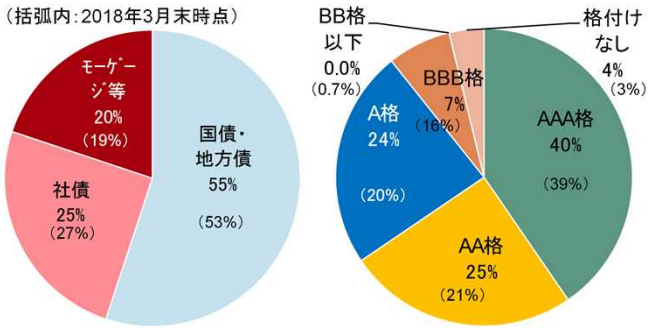
円建債券の内訳 (1)



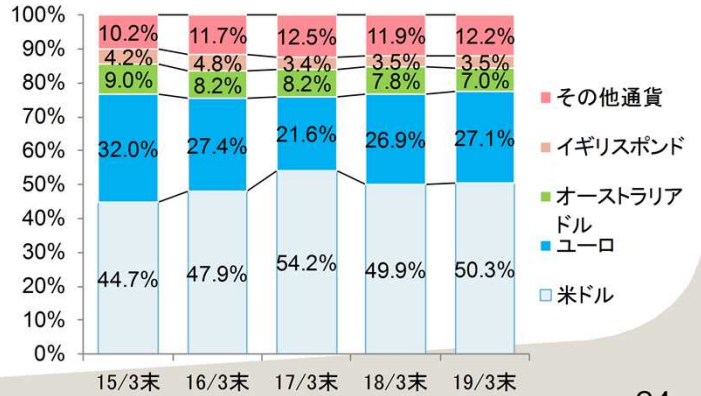
国債の残存期間別残高 (2) (2019年3月末)



外貨建債券の内訳 (2)(3) (2019年3月末)



外貨建債券の通貨別構成 (2)



(1) 簿価ベース
 (2) 貸借対照表価額ベース
 (3) 格付けはS&P・Moody'sの2社の格付け機関による格付けの中間の評価を採用、モーゲージ等を除く

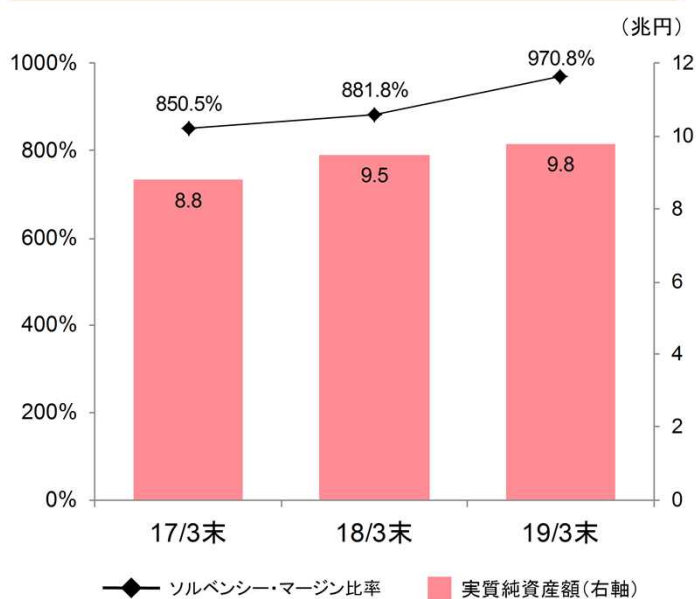


含み損益（一般勘定）

(億円)

	18/3末	19/3末	増減
有価証券	58,271	60,386	+2,114
国内債券	32,296	34,776	+2,480
国内株式	20,159	17,913	△2,245
外国債券	4,140	6,026	+1,886
外国株式	1,411	1,336	△75
不動産	2,182	2,742	+560
その他共計	60,491	63,339	+2,847

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額

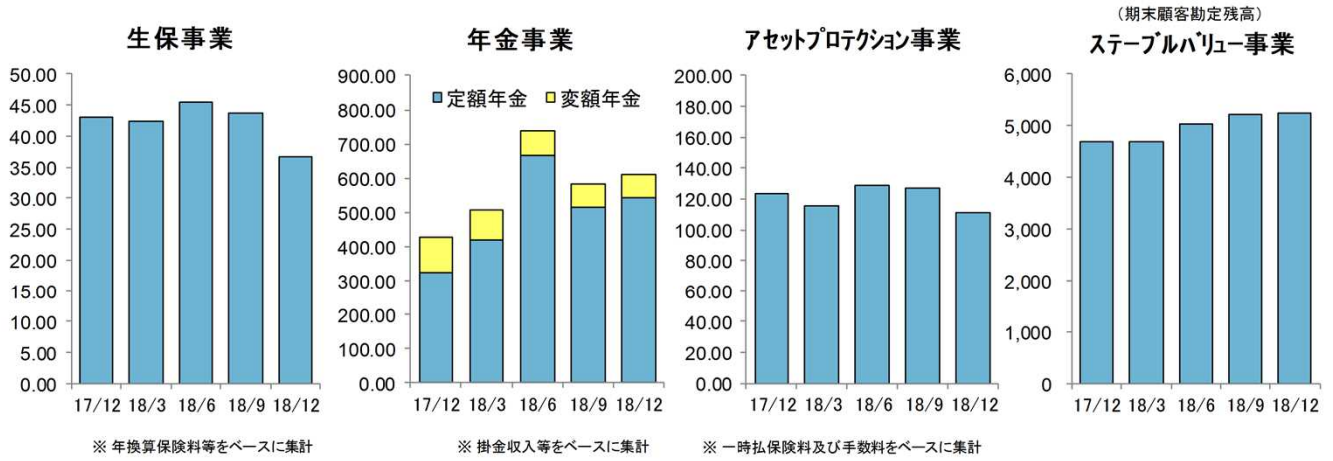


<参考> 第一生命ホールディングスの
連結ソルベンシー・マージン比率:
2019年3月末 869.7%

	感応度 (1)	含み損益ゼロ水準 (2)
国内株式	<p>日経平均株価 1,000円の変動で 1,500億円の増減 (2018年3月末: 1,700億円)</p>	<p>日経平均株価 ¥9,900 (2018年3月末: ¥9,500)</p>
国内債券	<p>10年国債利回り 10bpの変動で 2,700億円の増減※ (2018年3月末: 2,600億円) ※その他有価証券区分: 300億円の増減 (2018年3月末: 300億円)</p>	<p>10年国債利回り 1.2%※ (2018年3月末: 1.2%) ※その他有価証券区分: 1.4% (2018年3月末: 1.4%)</p>
外国証券	<p>ドル/円 1円の変動で 290億円の増減 (2018年3月末: 270億円)</p>	<p>ドル/円 \$1 = ¥108 (2018年3月末: ¥103)</p>

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度を記載しています。
 (2) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準を記載しています。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準を記載しています。

営業業績（百万米ドル）



業績ハイライト (1)

(百万米ドル)

	18/3期	19/3期	前年比	
生保事業	50.7	△ 19.3	△ 70.1	--
買収事業	249.7	282.7	+ 32.9	+13.2%
年金事業	213.0	167.1	△ 45.8	△21.5%
ステーブルバリュー事業	105.2	102.3	△ 2.9	△2.8%
アセットプロテクション事業	24.3	29.9	+ 5.5	+22.8%
コーポレート	△ 136.3	△ 84.2	+ 52.1	+38.2%
税引前営業利益 (2)	506.8	478.5	△ 28.3	△5.6%
キャピタル損益 (運用収支)	149.1	△ 241.5	△ 390.6	--
キャピタル損益 (金融派生商品損益)	△ 221.0	146.0	+ 367.0	--
法人税等	△ 671.4	80.6	+ 752.1	--
当期利益	1,106.5	302.3	△ 804.1	△72.7%

<参考>

(円)

	17/12末	18/12末
為替レート(米ドル)	113.00	111.00

(1) 米プロテクトティブの決算日は12月31日です。

(2) 税引前営業利益(Pre-tax Adjusted Operating Earnings)とは、当期利益から資産運用やデリバティブにおけるキャピタル損益を控除した利益指標です。

新契約年換算保険料 (1)

(百万豪ドル)

	17/3期	18/3期	19/3期	増減
個人保険				
新契約	148	139	106	△ 32
既契約増減	100	119	108	△ 10
小計	248	258	215	△ 43
団体保険				
新契約	5	160	21	△ 138
既契約増減	0	△23	57	+81
小計	6	136	79	△ 57
Asteron Life (3)				
新契約			1	+1
既契約増減			4	+4
小計			6	+6
合計	254	395	301	△ 93

※既契約増減は契約更新や料率改訂等に伴う既契約の年換算保険料の増減を示す

純利益と基礎的収益力の差異 (1)

(百万豪ドル)

	18/3期	19/3期	前年比
純利益(A) ⁽²⁾	128	111	△14%
修正額(B)	54	58	
うち負債割引率の変化	8	9	
うち償却負担	19	12	
うち優先株配当	9	9	
その他	16	28	
基礎的収益力=(A)+(B) (Underlying profit)	183	170	△7%

<参考>

	18/3末	19/3末
為替レート(豪ドル)	81.66円	78.64円

- (1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値
 (2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しています。
 (3) 2019年2月28日付で子会社化したSuncorp Life & Superannuation Limitedは買収完了と同時にAsteron Life & Superannuation Limitedに改名。

第一生命グループ - 連結財務諸表 (要約)



連結損益計算書

(億円)

	18/3期	19/3期	増減
経常収益	70,378	71,840	+1,462
保険料等収入	48,845	53,440	+4,594
資産運用収益	18,026	15,832	△2,193
うち利息・配当金等収入	11,973	12,442	+468
うち有価証券売却益	2,367	2,792	+425
うち金融派生商品収益	-	-	-
うち為替差益	-	-	-
うち特別勘定資産運用益	1,274	366	△907
その他経常収益	3,506	2,568	△937
経常費用	65,658	67,511	+1,853
うち保険金等支払金	37,899	38,391	+491
うち責任準備金等繰入額	12,238	13,092	+854
うち資産運用費用	5,489	5,415	△74
うち有価証券売却損	1,159	1,417	+258
うち有価証券評価損	47	111	+64
うち金融派生商品費用	789	415	△373
うち為替差損	2,452	1,623	△829
うち特別勘定資産運用損	-	-	-
うち事業費	6,611	7,035	+424
経常利益	4,719	4,329	△390
特別利益	341	25	△316
特別損失	344	286	△58
契約者配当準備金繰入額	950	875	△75
税金等調整前当期純利益	3,767	3,193	△574
法人税等合計	128	943	+814
非支配株主に帰属する当期純利益	-	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	3,639	2,250	△1,388

連結貸借対照表

(億円)

	18/3末	19/3末	増減
資産の部合計	536,030	559,412	+23,382
うち現預金・コール	10,558	12,556	+1,997
うち買入金銭債権	1,951	1,991	+40
うち有価証券	449,169	470,650	+21,480
うち貸付金	34,876	33,532	△1,344
うち有形固定資産	11,305	11,452	+147
うち繰延税金資産	12	171	+159
負債の部合計	498,537	522,276	+23,739
うち保険契約準備金	455,137	482,794	+27,656
うち責任準備金	445,977	473,257	+27,280
うち社債	9,689	10,622	+933
うちその他負債	19,981	14,209	△5,771
うち退職給付に係る負債	4,131	4,223	+91
うち価格変動準備金	1,957	2,182	+224
うち繰延税金負債	3,578	3,110	△468
純資産の部合計	37,492	37,135	△356
うち株主資本合計	15,896	17,088	+1,191
うちその他の包括利益累計額合計	21,583	20,036	△1,546
うちその他の有価証券評価差額金	22,381	21,015	△1,365
うち土地再評価差額金	△124	△134	△10

以下の項目については、責任準備金の戻入/繰入や関連する資産の含み益/損等と相殺されるものを含みます。これらについては益又は損が発生するものの、業績に大きな影響を与えるものではありません。
(特別勘定資産運用益/損 為替差益/損 金融派生商品収益/費用)

損益計算書

(億円)

	18/3期	19/3期	増減
経常収益	37,919	37,395	△523
保険料等収入	23,219	23,149	△70
資産運用収益	11,512	11,404	△108
うち利息・配当金等収入	8,360	8,051	△308
うち有価証券売却益	2,296	2,747	+451
うち金融派生商品収益	-	-	-
うち特別勘定資産運用益	531	371	△160
その他経常収益	3,186	2,842	△344
経常費用	34,330	33,929	△401
うち保険金等支払金	22,652	23,284	+631
うち責任準備金等繰入額	1,663	82	△1,580
うち資産運用費用	2,903	3,607	+704
うち有価証券売却損	1,112	1,384	+271
うち有価証券評価損	8	78	+70
うち金融派生商品費用	327	482	+154
うち為替差損	750	959	+208
うち特別勘定資産運用損	-	-	-
うち事業費	4,086	3,902	△183
経常利益	3,588	3,466	△122
特別利益	5	24	+19
特別損失	301	230	△70
契約者配当準備金繰入額	950	875	△75
税引前当期純利益	2,342	2,385	+43
法人税等合計	643	656	+13
当期純利益	1,699	1,729	+29

貸借対照表

(億円)

	18/3末	19/3末	増減
資産の部合計	363,391	359,471	△3,920
うち現預金・コール	6,386	7,970	+1,584
うち買入金銭債権	1,911	1,991	+80
うち有価証券	309,611	307,555	△2,056
うち貸付金	25,623	23,482	△2,141
うち有形固定資産	11,161	11,228	+67
うち繰延税金資産	-	-	-
負債の部合計	334,509	330,618	△3,890
うち保険契約準備金	309,538	308,826	△712
うち責任準備金	304,072	303,537	△534
うち危険準備金	5,984	5,984	-
うち社債	4,762	4,762	-
うちその他負債	10,547	6,394	△4,152
うち退職給付引当金	3,929	4,006	+76
うち価格変動準備金	1,814	1,984	+170
うち繰延税金負債	2,037	2,011	△26
純資産の部合計	28,882	28,852	△29
うち株主資本合計	6,960	6,841	△118
うち評価・換算差額等合計	21,922	22,011	+88
うちその他有価証券評価差額金	22,138	22,111	△27
うち土地再評価差額金	△124	△134	△10

第一フロンティア生命 – 財務諸表 (要約)



損益計算書

	(億円)		
	18/3期	19/3期	増減
経常収益	18,094	20,369	+ 2,275
うち保険料等収入	16,079	18,760	+ 2,680
うち資産運用収益	2,014	1,609	△ 405
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益	-	-	-
うち為替差益	-	-	-
経常費用	17,486	19,978	+ 2,492
うち保険金等支払金	7,848	7,028	△ 820
うち責任準備金等繰入額	6,913	11,310	+ 4,397
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額	△ 46	△ 52	△ 5
うち危険準備金繰入額	70	94	+ 24
うち資産運用費用	2,023	743	△ 1,279
うち最低保証リスクに対するヘッジ損失	235	156	△ 78
うち為替差損	1,645	665	△ 979
うち事業費	614	780	+ 166
経常利益	608	391	△ 217
特別利益	-	-	-
特別損失	41	54	+ 13
法人税等合計	196	136	△ 59
純利益	370	199	△ 171
【参考】			
純利益	370	199	△ 171
最低保証リスク関連損益 ⁽¹⁾	△ 48	△ 114	△ 65
市場価格調整(MVA)による損益 ⁽²⁾	110	△ 10	△ 121
事業利益	616	611	△ 5
危険準備金繰入、価格変動準備金繰入、税金	△ 307	△ 286	+ 21

貸借対照表

	(億円)		
	18/3末	19/3末	増減
資産の部合計	75,346	87,554	+ 12,207
うち現預金・コール	1,719	2,099	+ 380
うち有価証券	67,652	78,580	+ 10,927
負債の部合計	73,826	85,607	+ 11,780
うち保険契約準備金	71,103	82,414	+ 11,310
うち責任準備金	70,978	82,217	+ 11,239
うち危険準備金	1,219	1,314	+ 94
純資産の部合計	1,520	1,947	+ 426
うち株主資本合計	1,300	1,500	+ 199
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△ 549	△ 349	+ 199

- (1) 最低保証リスク関連損益には、最低保証リスクに係る責任準備金繰入額及び同ヘッジ損益に加え、変額商品の危険保険料や最低保証に係る支払、再保険収支等が含まれます(18/3期: 139億円、19/3期: 81億円)。
- (2) 市場価格調整(MVA)に係る責任準備金繰入/戻入のうち、資産運用損益勘定で相殺されて、経常利益に影響を及ぼさない部分は除いています。

以下の項目については、責任準備金の戻入/繰入や関連する資産の含み益/損等と相殺されるものを含まず、これらについては益又は損が発生するものの、業績に大きな影響を与えるものではありません。
(特別勘定資産運用益/損 為替差益/損 金融派生商品収益/費用)

損益計算書(1)(2)

(百万米ドル)

	18/3期	19/3期	増減
経常収益	9,772	8,717	△1,055
保険料等収入	5,358	5,654	+296
資産運用収益	3,965	2,604	△1,361
その他経常収益	449	458	+9
経常費用	9,337	8,333	△1,003
保険金等支払金	4,705	5,270	+564
責任準備金等繰入額	3,002	793	△2,209
資産運用費用	569	1,118	+548
事業費	887	879	△7
その他経常費用	172	272	+99
経常利益	435	383	△51
特別利益	1	-	△1
特別損失	1	0	△0
法人税等合計	△671	80	+752
純利益	1,106	302	△804

貸借対照表(1)(2)

(百万米ドル)

	17/12末	18/12末	増減
資産の部合計	79,635	89,928	+10,293
うち現預金	395	251	△143
うち有価証券	60,193	69,105	+8,912
うち貸付金	8,435	9,426	+990
うち有形固定資産	119	191	+72
うち無形固定資産	2,819	3,117	+298
うちのれん	793	825	+32
うちその他の無形固定資産	1,990	2,259	+269
うち再保険貸	182	188	+5
負債の部合計	72,508	84,161	+11,652
うち保険契約準備金	63,599	75,919	+12,319
うち再保険借	272	279	+7
うち社債	4,186	4,338	+152
うちその他負債	3,124	2,702	△421
純資産の部合計	7,127	5,767	△1,359
株主資本合計	7,114	7,193	+78
その他の包括利益累計額合計	12	△1,425	△1,438

(1) 米国の会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております。
 (2) 米プロテクティブの決算日は12月31日です。

損益計算書 (1)(2)

(百万豪ドル)

	18/3期	19/3期	増減
経常収益	3,769	3,917	+147
保険料等収入	3,482	3,656	+174
資産運用収益	152	158	+6
その他経常収益	135	101	△33
経常費用	3,570	3,763	+193
保険金等支払金	2,476	2,599	+123
責任準備金等繰入額	262	276	+14
資産運用費用	40	44	+3
事業費	663	725	+61
その他経常費用	127	118	△9
経常利益	199	153	△45
特別損益	-	-	-
法人税等合計	70	42	△28
純利益	128	111	△17
基礎的収益力 (Underlying profit)	183	170	△13

貸借対照表 (1)(2)

(百万豪ドル)

	18/3末	19/3末	増減
資産の部合計	6,099	11,341	+5,241
現預金	1,235	933	△302
有価証券	2,041	6,543	+4,502
有形固定資産	0	0	△0
無形固定資産	1,150	1,122	△27
のれん	786	786	-
その他無形固定資産	363	335	△27
再保険貸	129	285	+156
その他資産	1,542	2,242	+699
繰延税金資産	-	213	+213
負債の部合計	3,699	8,354	+4,655
保険契約準備金	2,396	6,736	+4,340
再保険借	277	363	+85
社債	240	246	+6
その他負債	688	1,008	+319
繰延税金負債	96	-	△96
純資産の部合計	2,400	2,986	+586
株主資本合計	2,400	2,986	+586
資本金	1,630	2,130	+500
利益剰余金	769	855	+86

(1) 連結対象の豪持株会社 (TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd) に係る数値

(2) オーストラリアの会計基準で作成した財務諸表を、当社の開示基準に準じて組み替えた上で開示しております (基礎的収益力を除く)

主要企業別損益計算書（要約）



(億円)

	第一生命			第一フロンティア生命			ネオファースト生命			プロテクティブ			TAL			連結			
	18/3期	19/3期	増減	18/3期	19/3期	増減	18/3期	19/3期	増減	17/12期	18/12期	増減	18/3期	19/3期	増減	18/3期	19/3期	増減	
経常収益	37,919	37,395	△523	18,094	20,369	+2,275	246	1,812	+1,565	11,043	9,676	△1,367	3,078	3,080	+2	70,378	71,840	+1,462	
保険料等収入	23,219	23,149	△70	16,079	18,760	+2,680	245	1,811	+1,565	6,054	6,276	+221	2,843	2,875	+32	48,845	53,440	+4,594	
資産運用収益	11,512	11,404	△108	2,014	1,609	△405	0	0	+0	4,480	2,890	△1,590	124	124	+0	18,026	15,832	△2,193	
うち利息・配当金等収入	8,360	8,051	△308	1,191	1,544	+352	0	0	+0	2,352	2,789	+437	29	17	△12	11,973	12,442	+468	
うち有価証券売却益	2,296	2,747	+451	49	15	△34	0	-	△0	21	27	+5	-	-	-	2,367	2,792	+425	
うち金融派生商品収益 ⁽¹⁾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	67	+67	-	-	-	-	-	-	
うち為替差益 ⁽¹⁾	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	+0	-	0	+0	-	-	-	
うち特別勘定資産運用益	531	371	△160	742	-	△742	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,274	366	△907
その他経常収益	3,186	2,842	△344	0	0	+0	0	0	△0	507	509	+1	110	80	△30	3,506	2,568	△937	
経常費用	34,330	33,929	△401	17,486	19,978	+2,492	329	1,897	+1,567	10,551	9,250	△1,301	2,915	2,959	+44	65,658	67,511	+1,853	
うち保険金等支払金	22,652	23,284	+631	7,848	7,028	△820	17	107	+90	5,317	5,849	+532	2,022	2,044	+22	37,899	38,391	+491	
うち責任準備金等繰入額	1,663	82	△1,580	6,913	11,310	+4,397	142	1,147	+1,004	3,392	880	△2,512	214	217	+3	12,238	13,092	+854	
うち資産運用費用	2,903	3,607	+704	2,023	743	△1,279	0	0	△0	643	1,241	+597	33	34	+1	5,489	5,415	△74	
うち有価証券売却損	1,112	1,384	+271	37	17	△20	-	-	-	9	16	+6	-	-	-	1,159	1,417	+258	
うち有価証券評価損	8	78	+70	-	-	-	-	-	-	13	32	+19	-	-	-	47	111	+64	
うち金融派生商品費用	327	482	+154	115	0	△114	-	-	-	345	-	△345	-	-	-	789	415	△373	
うち為替差損	750	959	+208	1,700	665	△1,034	-	-	-	0	-	△0	0	-	△0	2,452	1,623	△829	
うち特別勘定資産運用損	-	-	-	-	4	+4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
うち事業費	4,086	3,902	△183	614	780	+166	167	636	+468	1,003	976	△26	541	570	+28	6,611	7,035	+424	
経常利益	3,588	3,466	△122	608	391	△217	△82	△85	△2	491	425	△65	162	120	△42	4,719	4,329	△390	
特別利益	5	24	+19	-	-	-	0	-	△0	1	-	△1	-	-	-	341	25	△316	
特別損失	301	230	△70	41	54	+13	0	0	△0	1	0	△0	-	-	-	344	286	△58	
契約者配当準備金繰入額	950	875	△75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	950	875	△75	
税金等調整前当期純利益	2,342	2,385	+43	567	336	△230	△82	△85	△2	491	425	△66	162	120	△42	3,767	3,193	△574	
法人税等合計	643	656	+13	196	136	△59	0	0	+0	△758	89	+848	57	33	△24	128	943	+814	
少数株主損益	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
当期純利益	1,699	1,729	+29	370	199	△171	△83	△85	△2	1,250	335	△914	105	87	△17	3,639	2,250	△1,388	

(1) 第一フロンティア生命の個別損益計算書について、デリバティブ取引のうち通貨スワップ取引の決済時に発生する収益（費用）を「為替差益（損）」から「金融派生商品収益（費用）」へと変更しております。これにより、前年に為替差損に計上していた金額のうち、55億円は金融派生商品費用に組み替えて表示しております。

主要企業別貸借対照表（要約）



(億円)

	第一生命			第一フロンティア生命			ネオファースト生命			プロテクティブ			TAL			連結		
	18/3末	19/3末	増減	18/3末	19/3末	増減	18/3末	19/3末	増減	17/12末	18/12末	増減	18/3末	19/3末	増減	18/3末	19/3末	増減
資産の部合計	363,391	359,471	△3,920	75,346	87,554	+12,207	449	1,574	+1,124	89,987	99,820	+9,833	4,980	8,918	+3,937	536,030	559,412	+23,382
うち現金・コール	6,386	7,970	+1,584	1,719	2,099	+380	350	861	+511	446	279	△167	1,008	733	△274	10,558	12,556	+1,997
うち買入金銭債権	1,911	1,991	+80	40	-	△40	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,951	1,991	+40
うち有価証券	309,611	307,555	△2,056	67,652	78,580	+10,927	24	152	+127	68,018	76,707	+8,688	1,666	5,145	+3,478	449,169	470,650	+21,480
うち貸付金	25,623	23,482	△2,141	-	-	-	-	0	+0	9,532	10,463	+930	2	14	+11	34,876	33,532	△1,344
うち有形固定資産	11,161	11,228	+67	2	3	+0	2	2	+0	135	212	+77	0	0	△0	11,305	11,452	+147
うち無形固定資産	992	1,069	+76	55	76	+21	0	3	+3	3,185	3,460	+274	939	882	△56	4,149	4,448	+298
負債の部合計	334,509	330,618	△3,890	73,826	85,607	+11,780	268	1,377	+1,109	81,934	93,418	+11,484	2,825	6,381	+3,556	498,537	522,276	+23,739
うち保険契約準備金	309,538	308,826	△712	71,103	82,414	+11,310	160	1,308	+1,147	71,867	84,270	+12,403	1,957	5,297	+3,340	455,137	482,794	+27,656
うち責任準備金	304,072	303,537	△534	70,978	82,217	+11,239	158	1,303	+1,145	71,138	83,491	+12,352	△866	2,050	+2,917	445,977	473,257	+27,280
うち社債	4,762	4,762	-	-	-	-	-	-	-	4,730	4,815	+85	196	194	△2	9,689	10,622	+933
うちその他負債	10,547	6,394	△4,152	833	902	+68	107	67	△39	3,530	3,000	△529	366	604	+237	19,981	14,209	△5,771
うち退職給付に係る負債	3,929	4,006	+76	-	-	-	-	-	-	105	90	△15	-	-	-	4,131	4,223	+91
うち価格変動準備金	1,814	1,984	+170	143	198	+54	0	0	-	-	-	-	-	-	-	1,957	2,182	+224
うち繰延税金負債	2,037	2,011	△26	85	173	+87	0	0	+0	1,392	931	△460	78	-	△78	3,578	3,110	△468
純資産の部合計	28,882	28,852	△29	1,520	1,947	+426	181	196	+15	8,053	6,402	△1,651	2,155	2,537	+381	37,492	37,135	△356
うち株主資本合計	6,960	6,841	△118	1,300	1,500	+199	181	195	+14	8,365	8,457	+91	2,341	2,804	+463	15,896	17,088	+1,191
うちその他の包括利益累計額合計	21,922	22,011	+88	219	446	+227	0	0	+0	△312	△2,055	△1,743	△185	△267	△81	21,583	20,036	△1,546
うちその他有価証券評価差額金	22,138	22,111	△27	219	446	+227	0	0	+0	29	△1,565	△1,594	-	-	-	22,381	21,015	△1,365
うち土地再評価差額金	△124	△134	△10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△124	△134	△10

第一生命グループ－連結ソルベンシー・マージン比率

(億円)

	18/3末	19/3末	増減
ソルベンシー・マージン総額(A)	72,918	73,344	+426
資本金等 ⁽¹⁾	12,239	13,147	+907
価格変動準備金	1,957	2,182	+224
危険準備金	7,211	7,309	+98
一般貸倒引当金	4	1	△3
(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)	27,995	26,393	△1,602
土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)	1,555	1,998	+443
未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の合計額	△115	△151	△35
全期テメル式責任準備金相当額超過額	23,200	23,345	+145
負債性資本調達手段等	7,592	8,442	+850
全期テメル式責任準備金相当額超過額及び負債性資本調達手段等のうち、マージンに算入されない額	△7,496	△7,287	+208
控除項目	△1,650	△2,650	△1,000
その他	423	613	+189
リスクの合計額(B) $\sqrt{(\sqrt{R_1^2 + R_5^2 + R_8 + R_9})^2 + (R_2 + R_3 + R_7)^2} + R_4 + R_6$	17,395	16,864	△530
保険リスク相当額 R_1	1,202	1,232	+29
一般保険リスク相当額 R_5	52	59	+6
巨大災害リスク相当額 R_8	20	15	△4
第三分野保険の保険リスク相当額 R_8	2,013	1,944	△68
少額短期保険業者の保険リスク相当額 R_9	—	—	—
予定利率リスク相当額 R_2	2,532	2,618	+86
最低保証リスク相当額 R_7 ⁽²⁾	810	728	△82
資産運用リスク相当額 R_3	13,325	12,803	△521
経営管理リスク相当額 R_4	399	388	△11
ソルベンシー・マージン比率 $\frac{(A)}{(1/2) \times (B)} \times 100$	838.3%	869.7%	+31.4%

- (1) 社外流出予定額及びその他の包括利益累計額等を除いています。
 (2) 標準的方法を用いて算出しています。

【第一生命グループ】

(億円)

	18/3末	19/3末	増減
グループEEV	60,941	59,365	△1,576
対象事業 (covered business) のEEV ⁽¹⁾	63,208	61,287	△1,921
修正純資産	67,239	71,278	+4,039
保有契約価値	△ 4,030	△ 9,991	△5,960
対象事業以外の純資産等に係る調整 ⁽²⁾	△ 2,266	△ 1,922	+344

	18/3期	19/3期	増減
新契約価値	1,902	1,974	+ 71
収入保険料現価 (B)	44,272	52,198	+7,925
新契約マージン (A/B)	4.30%	3.78%	△ 0.51ポイント

(1) 対象事業 (covered business) とは、EEV原則で定められているEV手法を適用した範囲のことで、EEV原則では、対象事業のEEVを開示することを求めています。第一生命グループでは、生命保険事業を行う子会社（第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命、プロテクト、TAL、第一生命ベトナムおよびこれらの子会社）を対象事業としています。

(2) 「対象事業以外の純資産等に係る調整」には、2019年3月末における第一生命ホールディングスの単体貸借対照表の純資産の部（12,571億円）、第一生命ホールディングスの生命保険事業子会社6社に対する出資に係る調整（△14,666億円）、第一生命ホールディングスが保有する資産・負債を時価評価する調整が含まれます。

EEV -グループ各社のEEV



【グループ各社のEEV】

(億円)

第一生命	18/3末	19/3末	増減
EEV	48,870	45,505	△3,365
修正純資産	58,781	60,590	+1,809
保有契約価値	△ 9,910	△ 15,085	△5,174
	18/3期	19/3期	増減
新契約価値	1,490	1,395	△94
収入保険料現価	21,334	18,882	△2,452
新契約マージン	6.98%	7.39%	+ 0.40ポイント
	18/3期	19/3期	増減
新契約価値	131	30	△100
収入保険料現価	13,666	17,734	+ 4,067
新契約マージン	0.96%	0.17%	△ 0.79ポイント
	18/3期	19/3期	増減
新契約価値	30	318	+ 287
収入保険料現価	1,000	6,493	+ 5,492
新契約マージン	3.06%	4.90%	+ 1.84ポイント
	18/3期	19/3期	増減
新契約価値(均衝事業費ベース)	86	324	+ 237
収入保険料現価	1,000	6,493	+ 5,492
新契約マージン(均衝事業費ベース)	8.69%	5.00%	△ 3.69ポイント

(億円)

プロテクト	17/12末	18/12末	増減
EEV	6,586	6,627	+41
修正純資産	4,421	4,241	△179
保有契約価値	2,165	2,386	+221
	17/12期	18/12期	増減
新契約価値	12	35	+22
収入保険料現価	5,274	5,997	+723
新契約マージン	0.24%	0.59%	+ 0.35ポイント
※換算為替レート(円/米ドル)	113.00	111.00	
	18/3期	19/3期	増減
EEV	2,820	3,399	+579
修正純資産	1,329	1,759	+430
保有契約価値	1,491	1,640	+148
	18/3期	19/3期	増減
新契約価値	186	108	△77
収入保険料現価	2,318	2,070	△248
新契約マージン	8.04%	5.24%	△ 2.80ポイント
※換算為替レート(円/豪ドル)	81.66	78.64	
	17/12末	18/12末	増減
EEV	613	853	+240
修正純資産	289	390	+100
保有契約価値	323	463	+139
	17/12期	18/12期	増減
新契約価値	51	87	+ 35
収入保険料現価	677	1,020	+ 343
新契約マージン	7.68%	8.54%	+ 0.86ポイント
※換算為替レート(円/越ドン)	0.0050	0.0048	

(注) 第一生命ベトナムは伝統的手法による評価

(注) プロテクト、第一生命ベトナムの決算日は12月31日です。

EEV -感応度 (2019年3月末)

第一生命グループ

(単位: 億円、上段: 変化額、下段: EEVに対する変化率)

前提条件	EEV感応度	対象事業のEEV	修正純資産		対象事業以外の 純資産等に 係る調整	新契約 価値
			修正純資産	保有契約価値		
リスク・フリー・レート50bp上昇	4,921	4,867	△ 14,522	19,389	54	182
	8%	8%	△ 24%	33%	0%	9%
リスク・フリー・レート50bp低下	△ 6,055	△ 5,999	15,827	△ 21,826	△ 56	△ 217
	△ 10%	△ 10%	27%	△ 37%	△ 0%	△ 11%
株式・不動産価値10%下落	△ 4,680	△ 4,529	△ 4,396	△ 133	△ 151	0
	△ 8%	△ 8%	△ 7%	△ 0%	△ 0%	0%
第一生命グループのEEV	59,365	61,287			△ 1,922	1,974

第一生命

(単位: 億円、上段: 変化額、下段: EEVに対する変化率)

前提条件	EEV感応度	修正純資産		新契約 価値
		修正純資産	保有契約価値	
リスク・フリー・レート50bp上昇	4,980	△ 12,714	17,694	107
	11%	△ 28%	39%	8%
リスク・フリー・レート50bp低下	△ 6,115	13,924	△ 20,040	△ 137
	△ 13%	31%	△ 44%	△ 10%
株式・不動産価値10%下落	△ 4,418	△ 4,440	21	1
	△ 10%	△ 10%	0%	0%
第一生命のEEV	45,505			1,395

EEV –資産・負債の対応を考慮した再分類

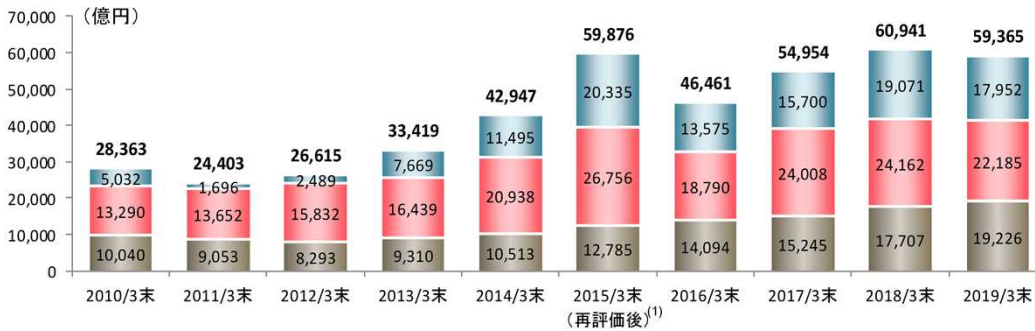
第一生命グループのEEV(億円)

資産・負債の対応を考慮した再分類

	18/3末	19/3末	増減
グループEEV	60,941	59,365	△1,576
対象事業 (covered business) のEEV	63,208	61,287	△1,921
修正純資産	67,239	71,278	+4,039
保有契約価値	△ 4,030	△ 9,991	△5,960
対象事業以外の純資産等に係る調整	△ 2,266	△ 1,922	+344

	18/3末	19/3末
グループEEV	60,941	59,365
確定利付資産以外の含み損益等 ⁽²⁾	19,071	17,952
保有契約価値+確定利付資産の含み損益等 ⁽³⁾	24,162	22,185
純資産等+負債中の内部留保 ⁽⁴⁾	17,707	19,226

第一生命グループのEEV推移【資産・負債の対応を考慮した再分類】



保有契約価値+含み損益等
: 保険契約の保有により生じる将来利益

確定利付資産以外の含み損益等⁽²⁾

保有契約価値+確定利付資産の含み損益等⁽³⁾

純資産等
+ 負債中の内部留保⁽⁴⁾
: 実現利益の累積額に相当

- (1) 2015/3末のEVは、終局金利を用いた方法による再評価後の数値を記載しております。
- (2) 第一生命が保有する確定利付資産以外の資産（株式、外貨建債券（ヘッジ外債を除く）、不動産等）の含み損益等の額を計上しています。
- (3) 保有契約価値に、第一生命の確定利付資産ならびに第一フロンティア生命およびネオファースト生命の資産の含み損益等を加算・調整した額を計上しています。本項目は、未実現利益のうち、主に金利の影響を受ける部分であり、金利水準等の変化に応じた、保有契約価値および確定利付資産の含み損益等の変動額は、お互いに相殺関係にあります。
- (4) 対象事業のEEVの修正純資産に対象事業以外の純資産等に係る調整を反映し、含み損益等を除いた額を計上しています。



本資料の問い合わせ先

第一生命ホールディングス株式会社
経営企画ユニット IRグループ
電話:050-3780-6930

免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命ホールディングス株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予期する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。